

「シビル・ベテランズ&ボランティアズ」活動状況 (6)

大阪市立大学 名誉会員 古田 均 (CVV 代表)

1. まえがき

シビル・ベテランズ&ボランティアズ (CVV) は1996年4月に関西在住の土木技術者により構想され、シニア技術者の土木分野での社会貢献を目指して継続的に活動してきた。その後、創設期メンバーの高齢化が進んだことから新たなメンバーを招集するとともに、2016年度から2年間、土木学会関西支部共同研究グループとしての支援を受け、将来を見据えた組織の在り方を検討した。

2018年6月にCVV総会を開催して会則を制定し、会員・会友を明確にして活動を推進してきた。2021年度も前年度からの新型コロナウイルス感染症 (コロナ禍) のため対外的な活動が制限されたが、新たな展開を進めることに努めた。ここに主な活動を報告する。

2. 主な活動と成果

2-1. 定例会・活動資金

例年1~2カ月ごとに開催していた定例会は、コロナ禍のため2021年末までに3回実施となり (リモート併用)、2022年3月に年度最後の開催を予定している。定例会では活動報告および活動企画に関する討議、ならびに今後の活動方針や組織の在り方等を議論している。活動資金は支部助成金30万円で、今年度の主な支出は会員交通費等である。



写真-1 高瀬川

2-2. 角倉了以翁の偉業と三栖閘門(選奨土木遺産)調査

安土桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍した京都の豪商・角倉了以翁は、商品の流通のために土木事業にも力を入れ、水運確保のため大堰川(保津川)と高瀬川(写真-1)などを開削した。琵琶湖疏水の設計者である田辺朔郎と共に「水運の父」としても有名である。多くの開削は私財を投じて行われたが、大堰川の開削では通行料を徴収して費用を回収したので、現在のPFIの先駆けとも言える。

CVVでは、2021年度の自主調査は、大堰川(保津川)と高瀬川の角倉了以翁のゆかりの地を巡り、その偉業を偲んだ。併せて、昨年度の選奨土木遺産調査で行けなかった宇治川下流の三栖閘門(写真-2)を見学した。



写真-2 三栖閘門

2010年(平成22年)度に選奨土木遺産に選定された三栖閘門は、1917年(大正6年)の大洪水を契機とした淀川改修増補工事の中で、宇治川と伏見港の舟運などの水利用を図る目的で建設され、1929年(昭和4年)に竣工した。現在は港の機能は失われ閘門としての役目を終えているが、伏見港は観光船(十石船など)の発着場として利用され、復元された旧操作室は三栖閘門資料館として、伏見の発展と治水・利水の歴史を今に伝えている。

2-3. 支援活動(児童いきいき放課後事業)

児童いきいき支援活動は「小学生に土木の楽しさ・素晴らしさを知ってもらおう」を目的に、2019年度より大阪市内小学校関係者と活発に協議を重ね、コロナ禍で遅延した2021年12月に色々な橋の紹介(写真-3)と割りばしを使ったトラス橋の模型づくり活動(写真-4)を実施した。模型づくりに取り組む子供達の目の輝き、積極・元気な行動に応え、活動の輪を広めるため新たに行動をスタートした。



写真-3 いきいき放課後事業

2-4. 技術継承の取り組み

CVVでは、「技術伝承」を活動の柱の一つと位置づけてさまざまな取り組みを行っているが、今回新たに技術継承担当の幹事を配置した。どのような活動が望ましいか模索中であるが、今回先ず、CVVのホームページ²⁾にある【旧活動の記録Back to Past】/『CVVな男たち、女たち』について、一新した現会員メンバーによりバージョンアップを図ることとした。会員の経験や体験談が後輩にとって有益な情報となることを期待して原稿執筆及び編集作業を進めるとともに、これら執筆した記事のデータベース化などの活用方策について検討を行った。



写真-4 トラス橋の模型作り

2-5. 学会・他グループとの協同

(1) インフラパートナー合意書に基づく土木学会本部との協働について

土木学会本部、関西支部、CVV三者で2021年3月にインフラパートナー合意書を締結し、5月に全国の16団体と交流会を行ったが、その後の進展はみられない。

(2) 地盤工学会関西支部主催「若手セミナー」

地盤工学会では、次世代を担う若手会員の活性化、交流を目的として若手セミナーを毎年開催しており、今年もCVVメンバーの中から発注者・設計者・施工者の異なる立場から講師として招かれ、会場（写真-5, 6）とオンライン（写真-7）のハイブリッドで実務経験談を講演した。兵庫県南部地震での地盤災害、河川の氾濫危険度や破堤のメカニズム、地下鉄工事を中心とした都市土木の苦労話など、幅広い視点から若手技術者や学生と情報共有を図ることができた。



写真-5 会場での状況(その1)



写真-6 会場での状況(その2)

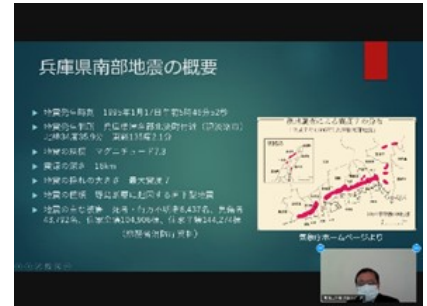


写真-7 WEB配信の状況

(3) 神戸市「土木の学校」橋梁模型コンテスト

コンテストは11月27日、神戸市中央区の「KIITO」で開催された。CVVは例年審査員を派遣し、行事に協力している。高校・大学12校より出展があり、当日は百名近い参加者で会場は満席、盛況だった。各校から自作模型を前にしたプレゼン（写真-8）と載荷試験（写真-9）が行われた。ある高校生の製作時の失敗談と試行錯誤の経緯を聴き、このような経験が将来の若い技術者を育てると強く感じた。



写真-8 出展者のプレゼンテーション



写真-9 橋梁模型の載荷試験状況

2-6. その他の広報活動

上記(1)で紹介したインフラパートナー合意書締結団体である「シビル NPO 連携プラットフォーム (CNCP)」からの依頼で、機関誌「CNCP 通信 Vol.94 2022.2.5」に CVV の活動を紹介した。また、土木学会本部のダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会で実施されているカフェトークに CVV メンバーがゲストとして招かれ、「かせぎを離れた土木屋の活動エネルギーの源は」と題してシニア技術者としての「土木への思い」を述べた。

3. あとがき

昨年度からコロナ禍で活動が制限されるなか、定例会もリモート併用として参加し易くなり、オンラインで他団体との交流に活かしている。今年度も新たな会員の参画を得たが、構造工学分野以外に人材を求め活動範囲を広げたい。土木遺産は分野が広くその調査はきっかけになっている。さらに新たな会員を加え、シニア技術者の知恵・知識の伝承等の活動に取り組んでいく予定である。

参考文献

- 1) 古田：「シビル・ベテランズ&ボランティアズ」活動状況(5)，土木学会関西支部 年次学術講演会講演概要集，2021年5月。
- 2) CVVのホームページ：<http://cvv.jp/>（右のQRコードからもアクセスできます。）

